

## 5 系統性・連続性を踏まえた教育の充実

幼児期の教育と小学校教育、中学校教育の連続性を踏まえ、中学校卒業やその後の学びまでを見通した上で、子ども一人ひとりの学びや育ちの実態に配慮し、きめ細かな指導を行うことが重要です。

幼保小の接続期においては、子ども一人ひとりが安心して小学校生活をスタートし、自信や意欲を持って活動することができるよう、幼保小の教職員が、合同研修会等を通して、相互理解を深めるとともに、子どもの学びと育ちのつながりを意識しながら指導することが大切です。

小・中学校においては、小中9年間を一つのまとまりとしてとらえ、子どもの発達の段階に応じたきめ細かな指導を行うことができるよう、目指す子ども像や身に付けさせたい力について共通理解を図るとともに、それぞれの取組について検証し、改善を図ることが大切です。

### 幼保小連携の推進

#### ■教職員の連携にあたって

- 定期的な情報交換を通して、目指す子どもの姿や取組状況、子ども一人ひとりの状況等について共通理解を図るとともに、スタートカリキュラムの編成や改善に生かす。
- 保育参観や授業参観を通して、子どもの遊びや学びに向かう姿、指導方法等について相互理解を深める。
- 合同研修会において、教職員の働きかけや保育の環境、学習環境、学びのつながりなどについて話し合い、相互の指導に生かす。

#### ■児童と幼児の交流の充実に向けて

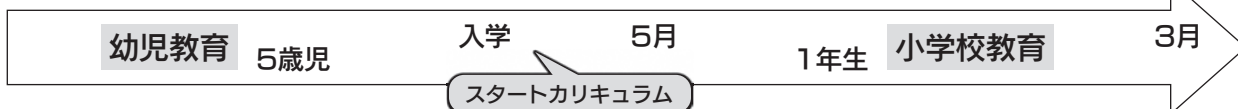
- 児童と幼児が継続的に交流することができるよう、幼児の小学校体験入学や交流会、行事への相互参加などを年間計画に位置付ける。
- 交流を通して幼児が小学校への期待を高めたり、児童が自分自身の成長を感じたりすることができるよう、それぞれのねらいを明確にした上で実施する。



### 幼稚園・保育所（園）、幼保連携型子ども園

### 小学校低学年

#### ～ 架 け 橋 期 ～



幼児期にはぐくまれた資質・能力が低学年の学習に円滑に接続するよう、幼保小教職員が共通理解を図りながら教育活動に取り組むことが、架け橋期の教育の充実につながります。

#### 幼保小教職員による子どもの姿を通した話合い＜取組例＞

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに、子どもの姿を通した話合いを行い、教育過程の編成や指導計画の作成などに生かす。

#### 【話合いの内容】

- ・子どもとの関わり、発達に合わせた働きかけ
- ・園での経験を生かした学習活動の工夫
- ・交流活動等のねらいや内容、時期
- ・スタートカリキュラムの評価・改善
- ・学びを支える環境づくり

#### ＜幼児期の終わりまでに育ってほしい姿＞

|         |              |           |              |                      |
|---------|--------------|-----------|--------------|----------------------|
| 健康な心と体  | 自立心          | 協同性       | 道徳性・規範意識の芽生え | 社会生活との関わり            |
| 思考力の芽生え | 自然との関わり・生命尊重 | 言葉による伝え合い | 豊かな感性と表現     | 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |

園では、友達と協力して活動する姿が見られるようになりました。関わり合いの中で、自分や友達のよさを見付けてほしいと思っています。



子どもたちは、遊びを通して、協力し合うことのよさを感じているんですね。

互いのよさを認め合うために、園でも小学校でも、自分の思いを言葉で伝えることができるようにしていきたいですね。

## 小中一貫した考えに立った教育の充実

### ■教職員の連携にあたって

- 目指す子ども像や身に付けさせたい力について共有化を図るとともに、「5つの視点」を踏まえ、発達の段階に応じたきめ細かな指導に努める。

### 小中一貫した考えに立った教育の充実を図るため、大切にしたい5つの視点

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 一貫性と発展性のある学習指導 | 連携を重視した生徒指導 |
| 発達の段階に応じた生き方指導 | 児童生徒の交流活動   |
| 小中一貫を支える連携体制   |             |

- 小・中学校教職員が互いの授業を参観することで、子どもの学ぶ姿をもとに、教職員の関わり方や学習環境、生活のリズム等について相互理解を深める。
- 小・中学校教職員が、子どもの入学後も定期的に情報交換を行うことで、子ども一人ひとりの状況等を把握し、継続した指導ができるようにする。

### ■児童生徒の交流の充実に向けて

- 小学生には、中学生に対する憧れや中学校生活に向けた期待感を持たせたり、中学生には、自らの成長や達成感を実感し、自己有用感を高めたりするなど、双方のねらいを明確にして実施する。
- 地域行事への合同参加など、児童生徒の交流活動のあり方について、学校運営協議会等で話題にし、保護者や地域の願いを生かす。



## 小学校中・高学年

## 中学校

年間を通して小・中学校教職員が互いに情報交換をしたり、児童生徒が交流する機会を設定するなどして、小学校と中学校の円滑な接続を図ることが重要です。

### 年間を通した小中連携について＜取組例＞

